



堀船中だより

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

《3組 北区中学校特別支援学級合同 那須宿泊学習に行ってきました！》

6月27日(木)～28日(金)までの1泊2日で、3組のみなさんが、那須宿泊学習に行ってきました。1日目は大谷石で有名な大谷資料館を見学すると、続いて那須どうぶつ王国で昼食をとり、バードショーなどを楽しみました。宿舎の北区立那須高原学園しらかば荘では、美味しい夕食と温泉のお風呂で一日の疲れを取りました。2日目は、モビリティリゾートもてぎにて他校の生徒のみなさんと交流体験を行い、バスでレースコースを走るなど、貴重な体験をしました。

宿泊学習の間、3組のみなさんは、レクやあいさつ・マナー等、全てが立派でした。とても楽しい、思い出に残る2日間となりました。



《2年生は、EC(イングリッシュ・キャンプ)那須に行ってきました！》

2年生は、7月8日(月)～10日(日)まで、EC(イングリッシュ・キャンプ)のため2泊3日で那須高原学園しらかば荘に行ってきました。NPO法人 国際自然大学校(NOTS)の企画に基づき行われるこの宿泊プログラムでは、教室から離れた豊かな自然環境の中で、外国人とふれ合い、共に生活体験や自然体験を重ねることにより、楽しみながら異文化理解を深め、国際化に対応する基礎的、実践的コミュニケーション能力(聞く力、話す力)の向上を図ること等を目的としています。2日目には、外国人留学生とコミュニケーションを取りながら、ハイキング・チャレンジラリーやキャンプファイアを楽しみました。最終日には那須りんどう湖ファミリー牧場でバーベキューや施設見学をするなど、充実した3日間を過ごすことができました。



《新一万円札発行記念給食を行いました！》

7月3日(水)は新札の発行日でした。北区ゆかりの渋沢栄一翁が新一万円札の肖像になることを記念して、昨年度しびさわくん給食を体験していない1年生の教室に、しびさわくんがやってきてくれました。山田区長さんも御来校くださり、1年1組のみなさんと一緒に給食を食べました。



副区長さん、仕事連携担当課長さんにもお越しいただき、日本テレビ、産経新聞、赤羽マガジン等でも紹介されるなど、貴重な体験ができました。

なお、当日の給食メニューは、渋沢栄一翁の好物であるナスやサツマイモを使ったナスミートソースパスタ・

もやし胡麻酢和え・おさつ春巻きで、大変美味しくいただきました。栄養士さん、給食業者のみなさん、本当にありがとうございました。

《地域の方を講師に迎え 道徳授業地区公開講座を行いました》

7月6日(土)、土曜授業日に道徳授業地区公開講座を行いました。創立70周年を迎え、地域の皆様の愛情いっばいに支えられて来た堀船中学校が今後ますます発展していくことを祈念して、「地域愛」をテーマに学習しました。

昭和町地区自治会連合会会長の松本様、堀船町会自治会連合会会長の榮様、青少年昭和町地区委員会会長の議波様、青少年堀船地区委員会会長の太田様の4名の皆様を講師にお迎えして講座を行いました。講師の皆様からそれぞれに大変貴重なお話をいただき、生徒達はもちろん、教員も大変勉強になりました。創立70周年にふさわしい道徳の授業ができましたことを、心より感謝申し上げます。



《祝 バドミントン部の活躍 おめでとうございます!》

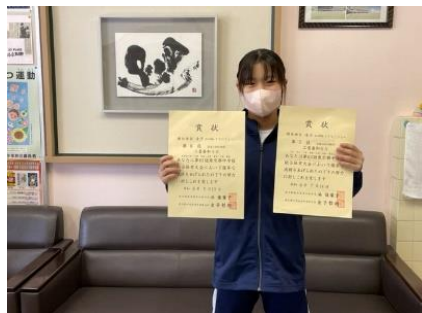
6月23日(日)、バドミントン北区夏季大会の団体戦が田端中学校体育館で行われ、女子団体戦、男子団体戦ともに準優勝しました。また、6月30日(日)にはバドミントン北区夏季大会の個人戦が滝野川体育館で行われました。女子シングルスで石川さんが優勝、女子ダブルスでは、小川さん・阿部さんペアが第3位、桂川さん・内海さんペアが同じく第3位、男子シングルスでは、河村さんが準優勝、男子ダブルスでは西丸さん・上浦さんペアが優勝しました。本当におめでとうございます。

7月7日(日)にはバドミントンブロック大会団体戦が赤羽体育館で開催され、男子はベスト8、女子はベスト16に入ることができました。また、7月15日(月)にはバドミントンブロック大会個人戦が赤羽体育館で開催され、2年生の河村さんが男子シングルスで都大会出場権を獲得しました。本当におめでとうございます。



《祝 1年生 三浦さん 水泳全国大会出場おめでとうございます!》

1年生 三浦さんが、第63回東京都中学校総合体育大会において、水泳女子4×100mフリーリレーで第6位、4×100mメドレーリレーで第7位と優秀な成績をおさめ、フリーリレーで全国大会に出場することが決定しました。本当に素晴らしいことです。おめでとうございます。



アントレプレナーの生き方（1） ～ジェームズ・ダイソン その1～

「吸引力の変わらない、ただひとつの掃除機」。ダイソンと聞くと、この印象的なフレーズと共に、洗練されたデザインのサイクロン式掃除機を思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。ダイソン社は1993年にイギリスで創業されましたが、実は世界初のサイクロン式掃除機は、ダイソン社設立前の1986年に日本で製品化されています。1998年には、ダイソン日本法人が設立されるなど、日本と縁の深い会社でもあります。このダイソン社の創業者であり、サイクロン式掃除機を発明した人物こそ、ジェームズ・ダイソンです。

1947年にイギリスのノーフォーク州生まれたジェームズ・ダイソンは、現在77歳であり、今でもダイソン社の創業者兼チーフエンジニアとして活躍されています。

ダイソン氏は、サイクロン式（遠心分離式）の掃除機を世界で初めて開発・製造しました。王立美術大学(RCA)出身のダイソン氏は、「デザインと機能は切り離せない関係にある」「完全なる美というのはエンジニアリングの追求から生まれる」「新製品の技術的利点は、技術そのものを活かして製品を楽しく使えるようにすれば必ず消費者に理解してもらえる」といった独自の強い信念をもっていました。そんなダイソン氏だからこそ、実際に、デザインの美しく、かつ画期的な機能を兼ね備えた製品を開発し、一代にして世界でも有数の家電メーカーを築きあげました。しかし、この「世界のダイソン」に至るまでに、ダイソン氏はなんと5,126個もの掃除機（試作機）を作り、いずれも失敗に終わっているというのです。

もっとも当のダイソン氏は、気が遠くなるほど繰り返した試作機づくりについて、「大変だったけど、楽しくて夢中になれるプロセスだった」と語っています。その頃当たり前だった紙パック式掃除機に疑問をもち、紙パックの交換を必要としない家庭用掃除機をつくるため、ダイソン氏は自宅にこもって五年もの時を研究に費やしました。果てしない数の試作機の失敗はもとより、妻子と莫大な住宅ローンを抱え、借金まみれだったにも関わらず、ダイソン氏は新技術の開発に挑戦し続けました。なぜダイソン氏は、途中で投げ出さず、先の見えない生活の果てに、自らの仕事をやり遂げることができたのでしょうか。

その疑問に答えるためには、ジェームズ・ダイソンの自叙伝の冒頭を引用することから始める必要があるように思います。

※※※

「でも、ジェームズ。もっといい掃除機があるというなら、フーバーかエレクトロラックスがとっくに作っていたんじゃないか？」

僕がこの言葉を初めて聞いたのは、たしか1979年だったと思う。初めて設立した会社を去り、生活の保障、収入、社会的地位を投げ捨てて、自宅裏のガラクタ小屋で進めていたプロジェクトに参加してくれと旧友を説き伏せる直前のことだ。それまで経験した仕事は、新種の手押し車、上陸用高速艇、そして2、3の空想などなど。12年間、僕は借金の重圧に苦しんだ。英国と米国の大手メーカーに自分の製品を売り込んで、あえなく失敗。自分の掃除機を守るために、大西洋の両岸で厳しい法廷論争を繰り返した。そして92年、寒くて雨の多い英国の田舎で、僕は独りで考え、設計し、作り、テストした機械の、たった1人の所有者として、独力で生産を始めた。

何百もの試作品、何千もの修正、そして何万回ものテストを重ねたあげく、僕は借金地獄にあったけど、サイクロン（遠心分離式）を愛した。その後、2003年までに英国の4世帯に1世帯がダイソンの掃除機を所有するようになった。そして会社は35ヶ国で年間3億ポンド以上を売り上げ、設立から10年で全世界に1,000万台以上の掃除機を販売した。僕は、研究開発の鬼となって、ひたすら掃除機の改良を続けて来たけれど、自社工場における2、3の驚くべき技術革新のおかげで、世界で最も小型、軽量、高性能のサイクロン式掃除機を製造することができた。それは世界最先端のエレクトロニクス市場で十分通用する機械であり、欧米企業の新技術を搭載した機械としては、世界で最初に日本で発売されることになった機械だ。これは、僕がそれをどう作ったかの物語である。

※※※



ダイソン掃除機の写真
【提供 ダイソン株式会社】

世界に名だたるアントレプレナー、ジェームズ・ダイソンのストーリーは次号に続きます。なお、今回の引用元であるジェームズ・ダイソンの自叙伝『逆風野郎 ダイソン成功物語』は、堀船中図書室で借りることができます。興味をもった方は、この夏休みにぜひ読んでみてください。